

2025年06月30日作成 Ver.1.1

《情報公開文書》

活動期僧帽弁位感染性心内膜炎に対する
右小開胸下僧帽弁手術の成績

研究の概要

【背景】

右小開胸下僧帽弁手術はその低侵襲性と安全性、有効性から僧帽弁疾患に対する標準的手術となり、近年はリスクの高い患者やより複雑な僧帽弁病変に適応範囲は拡大しています。しかしながら、活動期僧帽弁位感染性心内膜炎に対する右小開胸下僧帽弁手術の安全性と有効性は明らかになっていません。

【目的】

活動期僧帽弁位感染性心内膜炎に対する右小開胸下僧帽弁手術の術後早期および遠隔期成績を明らかにし、胸骨正中切開アプローチと比較検討を行い、安全性と有効性、ならびに治療成績を評価します。また術後に感染性心内膜炎の再燃または僧帽弁逆流の再発を来した症例と、来さなかった症例との2群比較を行い、それぞれの再燃・再発に關与する危険因子の同定を行います。

【意義】

右小開胸下僧帽弁手術を行った活動期僧帽弁位感染性心内膜炎の患者さんを対象に手術の安全性と有効性を評価するとともに、感染性心内膜炎の再燃や僧帽弁逆流の再発のリスク因子を解析することで、適切な患者選択の指針を示すことができます。とくに活動期僧帽弁位感染性心内膜炎に対する右小開胸下僧帽弁手術の適応と限界を明らかにすることができます。

【方法】

安全性（病院死亡率、主要合併症発症率）、有効性（生存率、感染性心内膜炎再燃回避率、僧帽弁逆流再発回避率、再手術回避率）を評価します。また、術後に感染性心内膜炎の再燃または僧帽弁逆流の再発を認めた群と認めなかった群の2群間で臨床背景や術後経過の比較を行い、それぞれの再燃・再発に關与する危険因子の同定を行います。

対象となる患者さん

2012年7月1日から2025年12月31日までに活動期僧帽弁位感染性心内膜炎に対して僧帽弁手術を受けられた方。

研究に用いる情報

手術前から2026年12月31日時点の下記の情報を診療録より収集します。

- 患者背景：性別、年齢、体重、合併症、原因菌、塞栓症の有無と部位、診断から手術までの期間、手術適応理由

- 心エコー検査結果
- 手術に関する情報：手術内容、手術時間、使用した人工弁輪の情報など
- 術後経過：合併症の有無、感染性心内膜炎、僧帽弁逆流再燃の再燃の有無など

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2027年12月31日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学病院 心臓血管外科 氏名：久富 一輝 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095 (819) 7307
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停の申し出について】

長崎大学病院 心臓血管外科 担当者名 久富 一輝
 〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号
 電話：095 (819) 7307 FAX 095 (819) 7311

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095 (819) 7200
 受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）